



別刷り

学習企画

第5回

「軍事国家への道を許さない」

ロシアにとっての対アメリカ

ロシアの軍事力を考える場合にまず、ロシアとアメリカの位置関係を考慮しておく必要があります。ロシアは、旧ソビエト連邦時代からNATOに対抗していると共に対アメリカを強く意識した戦略をとっているからです。

右図を見てわかるのは、ロシアの首都モスクワからアメリカの首都ワシントンへは、日本の上空を通る必要はないということです。また、海軍という点から見てもロシアからは、北極圏を出て、まっすぐ大西洋を横切るルートがもっとも近道であり、わざわざ千島列島・ベーリング海のルートを通る必要はないということがわかります。



▲世界地図 (出典: Wikipedia)

ロシアが気にするヨーロッパ

次に上図にあるようにロシアは、国境が非常に長いことと、他国と国境を接していることがうかがえます。ロシアの東側・南側は山脈や砂漠やツンドラ地帯なので、産業も含めてあまり重要視されていません。逆に西側は、先進国も多く、ロシアにとっては軍事的にも

経済活動上にも気がかりなところでは、特に旧ソビエト連邦の国々の多くがNATOに加盟している状況があるからです。さらに現在では、NATOに加盟したいと表明している国は、ジョージア・ウクライナ・スウェーデンの3ヶ国があります。

NATOとは、北大西洋条約機構という軍事同盟です。

加盟国	北米	アメリカ・カナダ
	欧州のうち、米ソ冷戦時代から加盟していた国々	フランス・ドイツ・ギリシャ・アイスランド・イタリア・ポルトガル・スペイン・イギリス・ベルギー・デンマーク・ルクセンブルク・オランダ・ノルウェー・トルコ
	欧州のうち、旧ソビエト連邦およびソビエト連邦の影響力が大きかった国々	アルバニア・ブルガリア・クロアチア・チェコ・エストニア・ハンガリー・ラトビア・リトアニア・モンテネグロ・北マケドニア・ポーランド・ルーマニア・スロバキア・スロベニア
	新加盟	フィンランド

日本周辺のロシアの軍事力

このように考えると、ロシアの軍事力はヨーロッパとアメリカ本土に向いており、日本および日本周辺への脅威はかなり限定的なものとして見とれます。

ロシアの軍事力を見るとオホーツク海での戦力が問題となります。それをおおよそ示したのが下表になります。これを見ていただくと自衛隊の優位が見てとれます。同時に日本は兵器の稼働率は高いので、この表以上の軍事力差があるとみて間違いはないところです。

さて、ロシア側から見ると、この劣勢状況への対抗措置として戦術核兵器の配置ということが考えられます。戦術核兵器は、潜水艦・戦闘機・陸上発射ミサイル(バスチオン地对艦ミサイル)のそれぞれに装着が可能というものです。しかしながら、ここで冷静に考えなくてはならない点が3点あります。



▲オホーツク海 (出典: Wikipedia)



▲バスチオン地对艦ミサイル (出典: Wikipedia)

兵器	ロシアの東部軍管区	自衛隊
潜水艦	19隻	21隻
空母	0隻	4隻
水上艦	30隻	47隻
戦闘機	17飛行隊	21飛行隊
陸上発射ミサイル	72中隊	68中隊

▲ミリタリーバランス2020より

注: 飛行隊には概ね20機の戦闘機中隊には概ね200弱の軍人と発射基4基

ロシアによる日本への侵攻は空想的な状況

まず、1点目は古くから言われている2正面作戦はうまくいかないということです。ソビエト崩壊後からロシアにとっての軍事的正面はウクライナを含めた西側です。戦争を西側と東側(日本海側)で行うのは、経済的にも大変ですし、軍事戦略的にも愚策となり、日本への侵攻はまずあり得ないというところでしょう。

2つめは、日本との関係では通常戦力の差を埋めるために戦術核の使用があるかどうか?という点です

が、何を目的に戦術核を使用するのかが不明確であり、国際世論と経済的リスクを考えると積極的に戦術核の使用をすることも愚策となります。

最後に日本が千島列島等へ軍事侵攻をした場合には、戦術核の使用も現実味を帯びてくるかも知れません。ですから日本が外交交渉での領土問題の解決というスタンスをとる限りロシアによる日本への侵攻は非現実的と言えます。(国吉)